

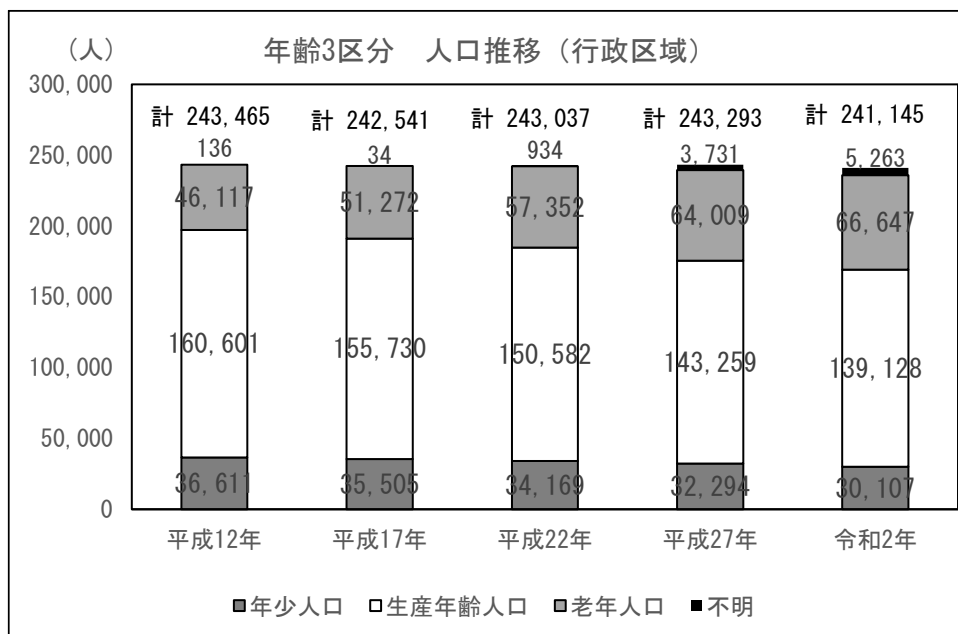
# ①人口

## C0101 人口規模

### C0101-1 人口総数及び増加数

・行政区域人口は平成12年をピークに、横這いから減少傾向で推移している。

令和2年国勢調査による松本市の人口は241,145人であり、前回調査(平成27年)から2,148人減少している。また、平成12年から令和2年の20年間の人口推移を見ると、平成12年から平成17年の5年間は増加率(-0.4%)、平成17年から平成22年までの5年間は増加率(0.2%)、平成22年から平成27年までの5年間は増加率(0.1%)と横ばいで推移してきたが、今回調査の平成27年から令和2年までの5年間は増加率(-0.9%)と減少傾向となっている。



C0101 人口規模

【区域区分別人口総数・増加数】

(平成12, 17, 22, 27年、令和2年国勢調査 就業状態等基本集計をもとに作成)

区域区分	平成12年		12年～17年の増減		平成17年		17年～22年の増減		平成22年		22年～27年の増減		平成27年		27年～2年の増減		令和2年	
	人口	人	人口	率	人口	人	人口	率	人口	人	人口	率	人口	人	人口	率	人口	人
行政区	243,465	▲ 924	▲ 0.4	242,541	496	0.2	243,037	256	0.1	243,293	▲ 2,148	▲ 0.9	241,145					
都市計画区域	233,183	35	0.0	233,218	1,002	0.4	234,220	1,827	0.8	236,047	▲ 1,190	▲ 0.5	234,857					
旧松本都市計画区域	218,753	▲ 447	▲ 0.2	218,306	719	0.3	219,025	—	—	—	—	—	—					
市街化区域	163,173	286	0.2	163,459	1,067	0.7	164,526	8,426	5.1	172,952	985	0.6	173,937					
うちDID地区	141,938	1,471	1.0	143,409	811	0.6	144,220	1,578	1.1	145,798	2,331	1.6	148,129					
市街化調整区域	55,580	▲ 733	▲ 1.3	54,847	▲ 348	▲ 0.6	54,499	8,596	15.8	63,095	▲ 2,175	▲ 3.4	60,920					
うちDID地区	908	▲ 908	▲ 100	—	926	—	926	▲ 243	▲ 26.2	683	242	35.4	925					
旧波田都市計画区域	14,430	482	3.3	14,912	283	1.9	15,195	—	—	—	—	—	—					
非線引き用途地域	—	—	—	9,011	62	0.7	9,073	—	—	—	—	—	—					
非線引き用途白地	14,430	—	—	5,901	221	3.7	6,122	—	—	—	—	—	—					
居住誘導区域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—					94,668
都市機能誘導区域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—					26,341

※平成12年は、松本市、波田町、梓川村、四賀村、奈川村、安曇村の合計

※平成17年は、松本市、波田町の合計

※各DID地区、居住誘導区域、都市機能誘導区域は住宅数の按分比で算出

※区域区分の有無により、市街化区域及び市街化調整区域、非線引き用途地域及び非線引き用途白地のうち、必要な区域を記載する。

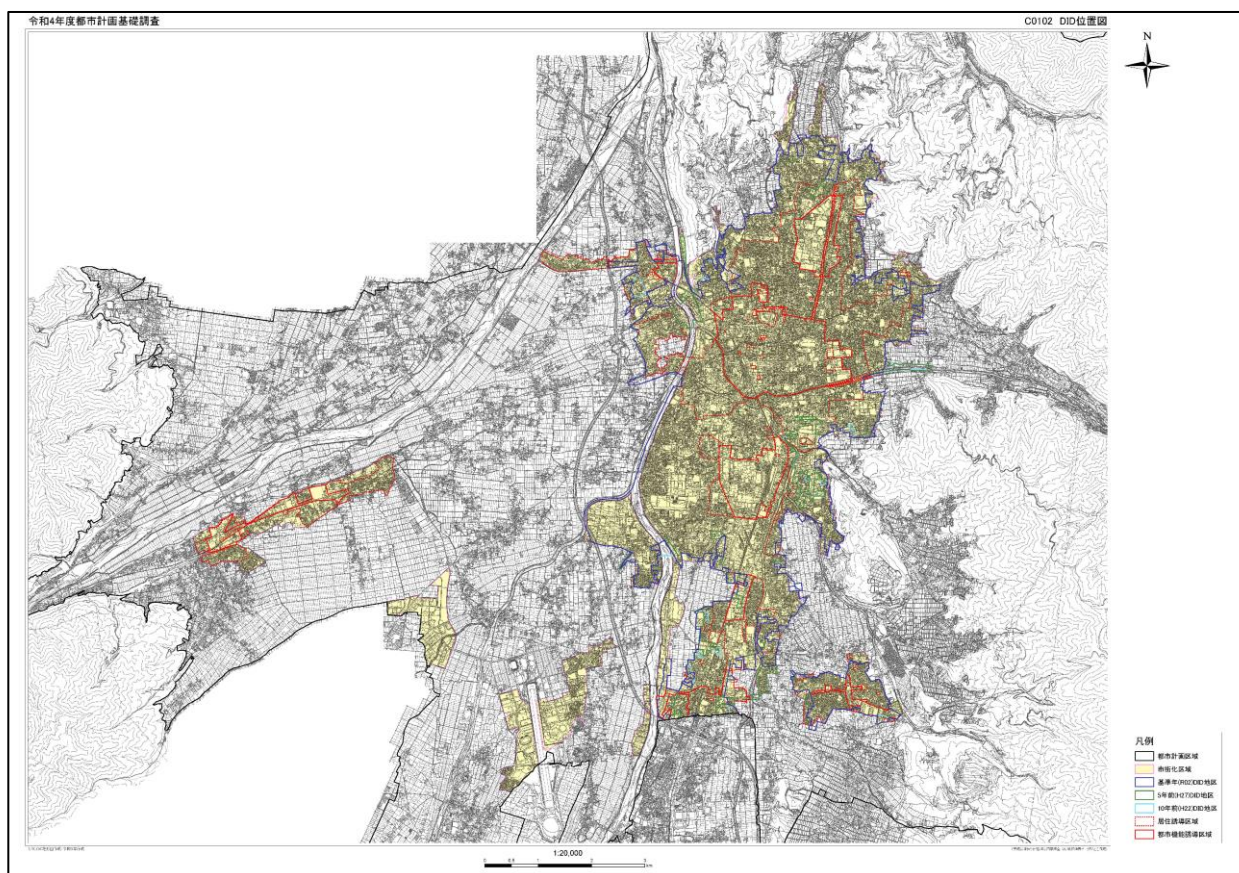
※立地適正化計画の各区域は立地適正化計画が策定されている場合に記載する。

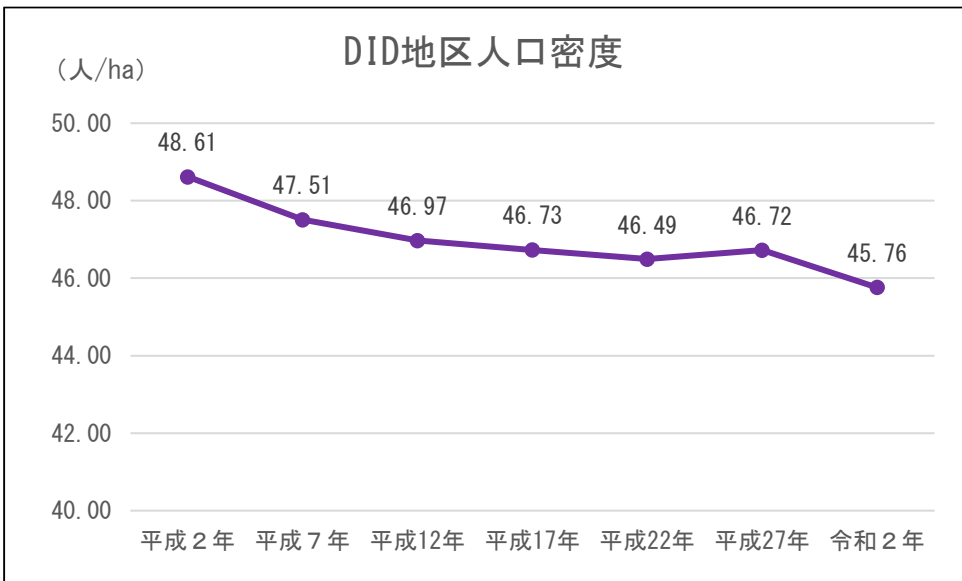
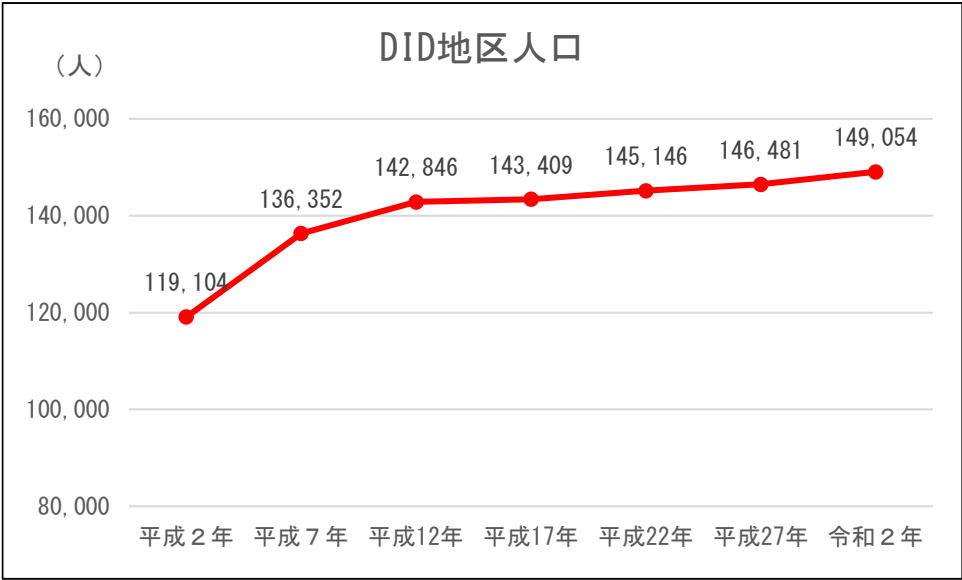
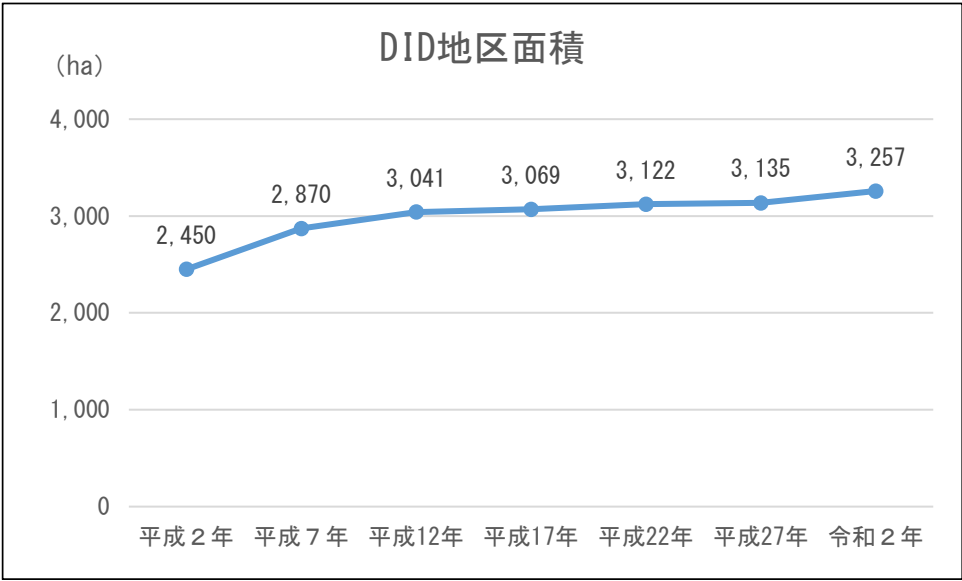
## C0102 DID

- ・面積は、増加傾向で推移しており、人口も増加傾向で推移している。
- ・人口密度は、ゆるやかな減少傾向で推移している。

本市の人口集中地区（DID）は、令和2年で面積3,257ha、人口149,054人、人口密度45.76人/haとなっている。

人口集中地区面積については昭和60年に70ha減少したがその後は増加傾向にある。人口についても昭和55年から平成12年まで各年約3,000人以上増加し、特に平成2年から7年にかけては17,248人増加している。平成17～令和2年において、DID地区面積自体が増加しており、伸び率にも変動はあるが、人口は増加傾向で推移している。人口密度は、ゆるやかな減少傾向で推移している。





## C0102 DID

## ＜集計表＞

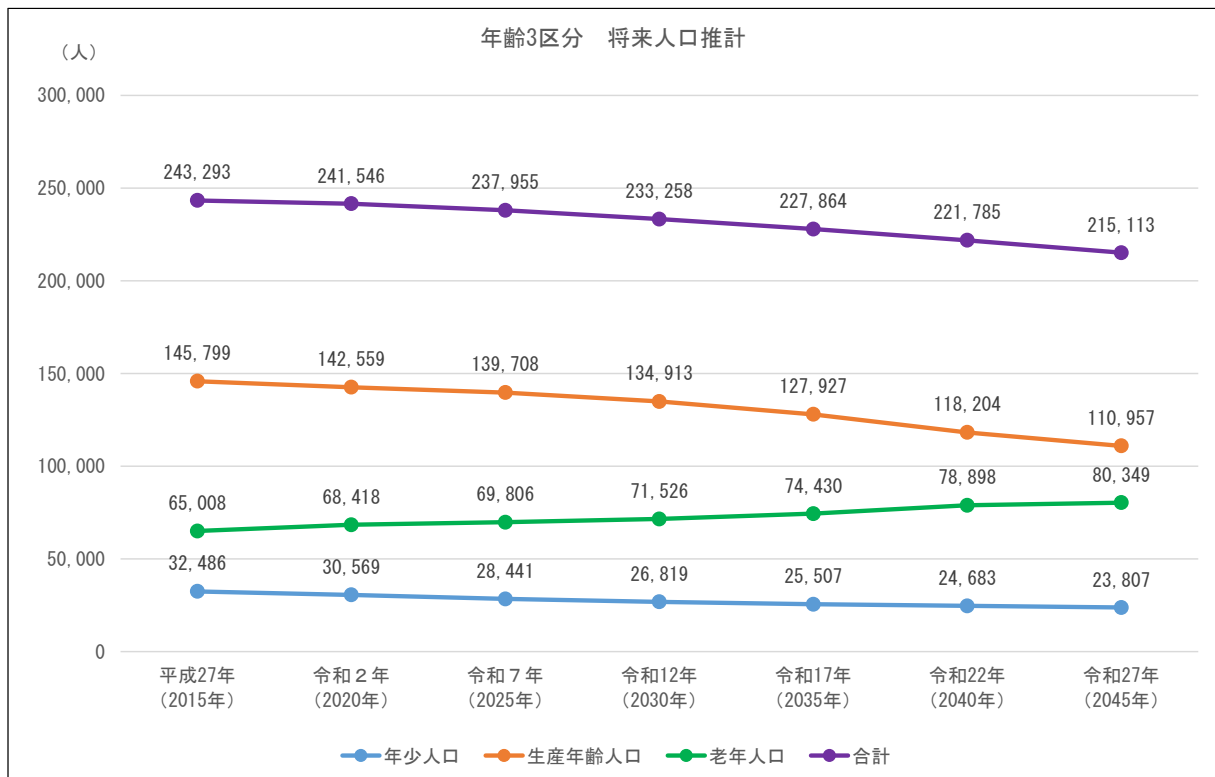
年度	DID地区面積		DID地区人口		人口密度 人/ha
	ha	人	ha	人	
平成2年	2,450	119,104			48.61
平成7年	2,870	136,352			47.51
平成12年	3,041	142,846			46.97
平成17年	3,069	143,409			46.73
平成22年	3,122	145,146			46.49
平成27年	3,135	146,481			46.72
令和2年	3,257	149,054			45.76

(平成2から令和2の年国勢調査 DID地区境界データをもとに作成)

## C0103 将来人口

- ・全体の将来人口は、減少スピードが増加傾向にある。
- ・年少人口は、減少が続いているが、減少スピードは鈍化している。
- ・生産年齢人口は、減少が進行し、令和27年には全体の5割程度まで減少している。
- ・老年人口は、増加を続けて、団塊ジュニア（1971～1974年生まれ）が65歳以上となる2035～2040年前後の増加幅が大きいことが予想されている。

国立社会保障・人口問題研究所による本市の将来人口総数は緩やかに減少していく結果となった。年齢階級別に見ると、年少人口（14歳以下）は令和27年には23,807人（行政人口の11.1%）になると予測され、平成27年の32,486人（行政人口の13.4%）と比べて8,679人減少している。生産年齢人口（15～64歳）も同様に、令和27年には110,957人（行政人口の51.6%）になると予測され、平成27年の145,799人（行政人口の59.9%）と比べて34,842人減少している。一方、老年人口（65歳以上）については令和27年には80,349人（行政人口の37.4%）になると予測され、平成27年の65,008人（行政人口の26.7%）と比べて15,341人増加している。



C0103 将来人口

<集計表>

(日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)[国立社会保障・人口問題研究所]年齢別男女別将来人口をもとに作成)

年齢	平成27年(2015年)		令和2年(2020年)		令和7年(2025年)		令和12年(2030年)		令和17年(2035年)		令和22年(2040年)		令和27年(2045年)								
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女							
	総数	人	総数	人	総数	人	総数	人	総数	人	総数	人	総数	人							
総数	243,293	119,479	123,814	241,546	118,552	122,994	237,955	116,601	121,354	233,258	114,061	119,197	227,864	111,181	116,683	221,785	108,036	113,749	215,113	104,670	110,443
0-4 歳	10,223	5,360	4,863	9,718	4,982	4,736	8,893	4,559	4,334	8,538	4,377	4,161	8,340	4,276	4,064	8,027	4,115	3,912	7,635	3,914	3,721
5-9 歳	10,919	5,629	5,290	10,052	5,172	4,880	9,583	4,821	4,762	8,786	4,422	4,364	8,454	4,255	4,199	8,267	4,165	4,102	7,965	4,017	3,948
10-14 歳	11,344	5,967	5,377	10,799	5,585	5,214	9,965	5,140	4,825	9,495	4,795	4,700	8,713	4,403	4,310	8,389	4,240	4,149	8,207	4,155	4,052
15-19 歳	12,804	6,827	5,977	12,074	6,547	5,527	11,454	6,124	5,330	10,598	5,656	4,942	10,088	5,299	4,789	9,239	4,855	4,384	8,880	4,667	4,213
20-24 歳	11,735	6,269	5,466	12,242	6,574	5,668	11,516	6,239	5,277	10,875	5,836	5,039	10,101	5,413	4,688	9,600	5,098	4,502	8,760	4,653	4,107
25-29 歳	12,023	6,262	5,761	11,870	6,243	5,627	12,346	6,526	5,820	11,633	6,178	5,455	11,026	5,819	5,207	10,309	5,433	4,876	9,812	5,145	4,667
30-34 歳	13,520	6,854	6,666	12,133	6,214	5,919	11,911	6,159	5,752	12,341	6,410	5,931	11,642	6,060	5,582	11,057	5,729	5,328	10,382	5,369	5,013
35-39 歳	16,340	8,186	8,154	13,566	6,803	6,763	12,225	6,190	6,035	12,037	6,152	5,885	12,458	6,383	6,075	11,757	6,028	5,729	11,183	5,712	5,471
40-44 歳	19,328	9,917	9,411	16,355	8,196	8,159	13,618	6,823	6,795	12,292	6,216	6,076	12,115	6,191	5,924	12,538	6,432	6,106	11,834	6,071	5,763
45-49 歳	17,046	8,657	8,389	19,262	9,870	9,392	16,360	8,208	8,152	13,642	6,836	6,806	12,326	6,234	6,092	12,146	6,213	5,933	12,554	6,443	6,111
50-54 歳	14,918	7,562	7,356	16,856	8,549	8,307	19,033	9,731	9,302	16,195	8,123	8,072	13,560	6,798	6,762	12,248	6,196	6,052	12,048	6,158	5,890
55-59 歳	13,689	6,869	6,820	14,793	7,441	7,352	16,720	8,415	8,305	18,867	9,563	9,304	16,073	8,001	8,072	13,502	6,722	6,780	12,192	6,122	6,070
60-64 歳	14,396	7,107	7,289	13,408	6,644	6,764	14,525	7,221	7,304	16,433	8,177	8,256	18,538	9,286	9,252	15,808	7,782	8,026	13,312	6,556	6,756
65-69 歳	16,952	8,196	8,756	14,045	6,860	7,185	13,094	6,421	6,673	14,204	6,994	7,210	16,085	7,932	8,153	18,145	9,005	9,140	15,489	7,558	7,931
70-74 歳	14,280	6,654	7,626	16,321	7,722	8,599	13,541	6,473	7,068	12,651	6,075	6,576	13,740	6,631	7,109	15,571	7,530	8,041	17,566	8,548	9,018
75-79 歳	11,908	5,295	6,613	13,376	6,028	7,348	15,384	7,057	8,327	12,780	5,925	6,855	11,980	5,583	6,397	13,034	6,110	6,924	14,793	6,953	7,840
80-84 歳	10,278	4,234	6,044	10,469	4,441	6,028	11,853	5,106	6,747	13,776	6,062	7,714	11,460	5,099	6,361	10,821	4,850	5,971	11,841	5,346	6,495
85-89 歳	7,214	2,514	4,700	8,072	3,007	5,065	8,341	3,211	5,130	9,559	3,746	5,813	11,298	4,549	6,749	9,411	3,834	5,577	8,999	3,706	5,293
90 歳以上	4,376	1,120	3,256	6,135	1,674	4,461	7,593	2,177	5,416	8,556	2,518	6,038	9,867	2,969	6,898	11,916	3,699	8,217	11,661	3,577	8,084

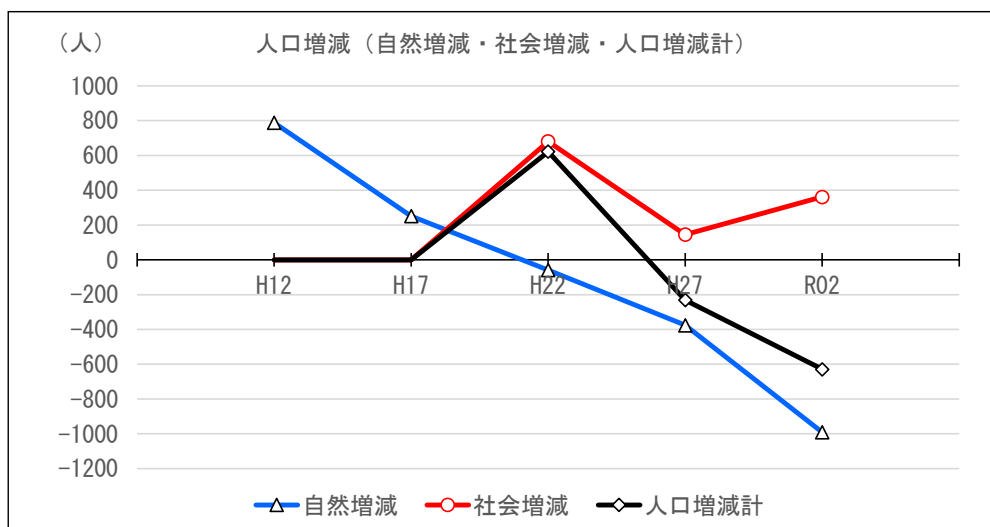
## C0104 人口増減

### C0104 人口増減(行政区域)

- ・自然動態人口は、平成 22 年に自然減に転換。その後、自然減の傾向が強まりつつある。
- ・社会動態人口は、平成 22 年は社会増であり、平成 27 年には社会増の傾向が弱まったものの、令和 2 年には再び社会増の割合が強まっている。

令和 2 年までの人口増減の推移を行政区域全体で見ると、自然動態人口は平成 22 年以降、減少傾向が強まっており、平成 27 年に死亡数が出生数を上回る自然減に転じた。

令和 2 年は 991 人の自然減と 362 人の社会増であり、合計すると 629 人の人口減となった。





C0104 人口増減

＜集計表＞

(松本市調査(基準日: 令和4年3月31日現在))

要因	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
	人	人	人	人	人
自然増減	788	252	▲ 59	▲ 376	▲ 991
出生数	2,635	2,301	2,178	2,100	1,608
死亡者数	1,847	2,049	2,237	2,476	2,599
社会増減			680	145	362
転入者数	13,361	11,200	9,355	8,734	9,080
転出者数			8,976	8,874	8,871
(その他増減)	333	334	301	285	153
人口増減計			621	▲ 231	▲ 629

※その他増減は、職権による消除・修正や国籍取得・帰化等。  
 ※平成12、17年の転出者数は存在しないため欠損とする。

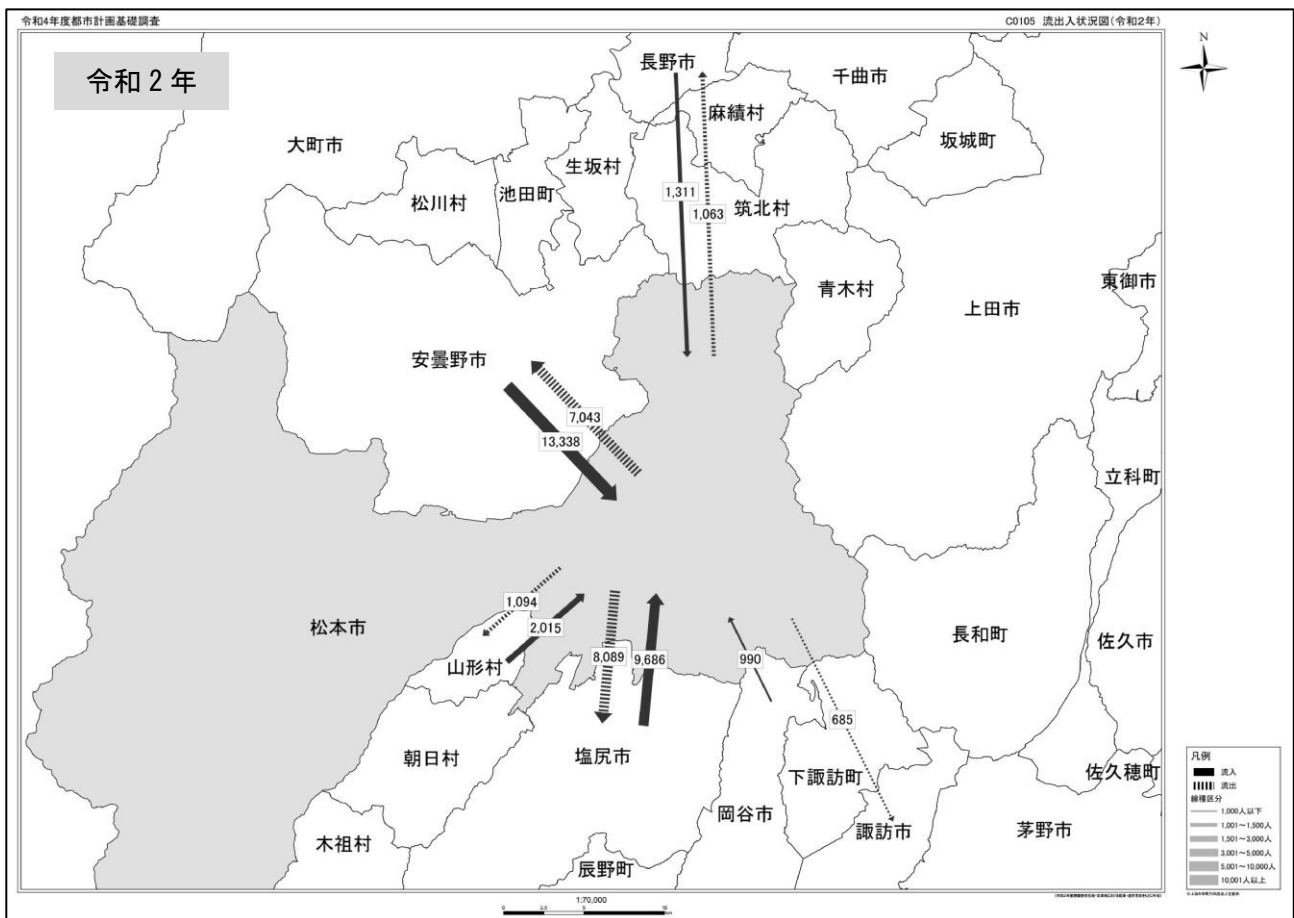
資料：人口動態調査、住民基本台帳人口移動報告

C0105 通勤・通学移動

- ・就業・通学者数は、常住地、従業地ともに平成12年度から減少傾向が続いている。
- ・流入出先別では、塩尻市、安曇野市が上位を占める傾向が続いており、結びつきが強い。

従業地における就業・通学者数をみると、令和2年は144,066人となっており、平成27年から令和2年の5年間で6,552人減少している。また、常住地においては、平成27年から令和2年の5年間で4,651人減少している。こうした動きから（従/常）就業・通学者比率は、令和2年で110.5%となり、平成12年から低下傾向が続いている。流入率をみると、平成27年の23.8%から令和2年は29.2%と増加している。また、流出率は若干の増加であり、平成27年の25.4%から令和2年は25.5%となっている。こうした状況により、流動量（流入+流出）は増加しており、流入人口が流出人口を上回っている。

一方、令和2年の流入、流出先別では、塩尻市および安曇野市がともに上位を占めており、流入入において塩尻市、安曇野市との結びつきが強いことを示している。次いで流出入とも3位山形村、4位長野市と続き、流出5位は諏訪市、流入5位は岡谷市となっている。



C0105 通勤・通学移動

<集計表>

(平成12,17,22,27年、令和2年国勢調査常住地・従業地における就業・通学者数をもとに作成)

	常住地による 就業・通学者数		流出		従業地による 就業・通学者数		流入		従/常 就業・通学者比率
	就業・通学者数	流出率	就業・通学者数	流出率	就業・通学者数	流入率	就業・通学者数	流入率	
	人	%	人	%	人	%	人	%	%
平成12年	144,355	12.9	18,550	12.9	165,077	23.8	39,272	23.8	114.4
平成17年	138,125	14.8	20,376	14.8	157,563	25.3	39,814	25.3	114.1
平成22年	135,474	16.9	22,829	16.9	152,693	25.1	38,279	25.1	112.7
平成27年	135,074	17.1	23,034	17.1	150,618	25.4	38,268	25.4	111.5
令和2年	130,423	18.1	23,626	18.1	144,066	25.5	36,763	25.5	110.5

流出先

	流出率第1位		流出率第2位		流出率第3位		流出率第4位		流出率第5位						
	市町村名	流出率	市町村名	流出率	市町村名	流出率	市町村名	流出率	市町村名	流出率					
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%					
平成12年	塩尻市	6,977	4.8	豊科町	3,013	2.1	穂高町	1,224	0.8	三郷村	832	0.6	長野市	800	0.6
平成17年	塩尻市	7,226	5.2	安曇野市	6,501	4.7	山形村	1,066	0.8	長野市	874	0.6	諏訪市	676	0.5
平成22年	塩尻市	7,887	5.8	安曇野市	6,551	4.8	山形村	1,064	0.8	長野市	980	0.7	諏訪市	695	0.5
平成27年	塩尻市	7,736	5.7	安曇野市	7,147	5.3	長野市	1,075	0.8	山形村	1,059	0.8	諏訪市	674	0.5
令和2年	塩尻市	8,089	6.2	安曇野市	7,043	5.4	山形村	1,094	0.8	長野市	1,063	0.8	諏訪市	685	0.5

流入先

	流入率第1位		流入率第2位		流入率第3位		流入率第4位		流入率第5位						
	市町村名	流入率	市町村名	流入率	市町村名	流入率	市町村名	流入率	市町村名	流入率					
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%					
平成12年	塩尻市	9,615	5.8	豊科町	4,294	2.6	穂高町	3,795	2.3	三郷村	3,710	2.2	山形村	2,154	1.3
平成17年	安曇野市	14,680	9.3	塩尻市	10,220	6.5	山形村	2,131	1.4	長野市	1,263	0.8	大町市	1,026	0.7
平成22年	安曇野市	14,165	9.3	塩尻市	9,959	6.5	山形村	2,045	1.3	長野市	1,227	0.8	岡谷市	974	0.6
平成27年	安曇野市	13,693	9.1	塩尻市	9,806	6.5	山形村	2,081	1.4	長野市	1,279	0.8	岡谷市	997	0.7
令和2年	安曇野市	13,338	9.3	塩尻市	9,686	6.7	山形村	2,015	1.4	長野市	1,311	0.9	岡谷市	990	0.7

※常住地による就業・通学者数とは、当該都市に常住する(夜間人口ベース)15歳以上の就業・通学者数をいう。  
 ※従業・通学地による就業・通学者数とは、当該都市に就業・通学する(昼間人口ベース)15歳以上の就業・通学者数をいう。  
 ※平成12年調査は松本市、四賀村、安曇村、奈川村、梓川村の合計値  
 ※平成17年調査は松本市、波田町の合計値

流出率=流出就業・通学者数/常住地による就業・通学者数×100

流入率=流入就業・通学者数/従業・通学地による就業・通学者数×100

就業率=就業・通学地による就業・通学者数/常住地による就業・通学者数×100